

先週から黙示録の学びにもどりました。今朝は七つの教会に宛てられた手紙の三つ目のペルガモにある教会への手紙です。

1. ペルガモ教会の美点 (12~13節)

①ペルガモの教会 (12)「また、ペルガモにある教会の御使いに書き送

れ。鋭い、両刃の剣を持つ方がこう言われる。」ペルガモはエペソから北へ約135キロ、エーゲ海から内陸に約24キロの内陸に位置していました。羊皮紙はここで発明されました。ローマ時代には、数々の神殿が建てられ、偶像礼拝や皇帝礼拝がさかんでした。ここに教会がたてられたわけですが、異端的が教えもはびこっていました。その教会の指導者に、主イエスからメッセージが伝えられたのです。「鋭い、両刃の剣を持つ方」とあるのは、1章16節に記されているのと照合できます。

②サタンの王座 (13)「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。

そこにはサタンの王座がある。」主イエスが、ペルガモの教会の人々に伝えられた第一のメッセージは、「あなたの住んでいる所を知っている」ということでしたが、その地理的な場所、経済状態、民の様子など、その霊的状态についても、主はよくご存知でした。主がここでご指摘されたことは、「そこにはサタンの王座がある」ということでした。それはあのアテネでもそうでしたが、町中に偶像がひしめいていて、ギリシャの神々を奉る神殿もたくさんあったからでした。

③殉教者アンテパス (13)「しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、

わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでもわたしに対する信仰を捨てなかった。」しかし、そのような異教のひしめく中であっても、ペルガモの教会は主の御名をあがめ続けていました。アンテパスが迫害を受けた末に殉教するという、教会の大試練の中であっても、信徒達が信仰を捨てなかったことを主は評価してくださっているのです。あのペテロはイエスが逮捕された時に、主を知らないと言った三度も否定してしまいましたが、身に危険が迫ると誘惑も強く働くのです。

2. ペルガモ教会への注意 (14~15節)

①非難すべき事 (14)「しかし、あなたには少しばかり非難すべきこと

がある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。」ほめられた後には厳しい言葉が伝えられます。非難することがあるというのは、彼らがバラムの教えを奉じている点でした。バラムは占い師でした。それは魔術的なものでした。ここは旧約時代のバラムの教えに近いものを奉じている人々に関する指摘です。



②バラムとバラク (15)「**バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行わせた。**」モアブの王であったバラクは、ユーフラテス河畔のペトルにいるベオルの子で占い師バラムを執拗に説得して招いたのです。バラクはバラムにのろいを迫りました。民数記 22~24 章にはバラムが神に従う人のように読んでしまいがちですが、新約聖書は彼を不信仰の人として扱っています。ここには、バラムがバラクに、偶像の神にささげた物を食べさせるといふ不信仰を教えたということが指摘されています。それもイスラエルの人々の前で、堂々とそれがなされたのです。

③ニコライ派の教えを (15)「**それと同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。**」ニコライ派は、七つの教会に悪影響を与えた異端でしたが、その信仰と行為において、自由奔放な無律法的な集団であったようです。エペソの教会はこれを否定しましたが (2:6)、ペルガモの教会にはこの教えにたぶらかされている人々がいました。

3. 白い石には新しい名が (16~17 節)

①悔い改めよ (16)「**だから、悔改めなさい。もしそうしないなら、わたしはすぐにあなたのところに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦う。**」十戒の第一戒は「あなたには、わたしの他にほかの神々があつてはならない。」で第二戒は「あなたは自分のために偶像を造ってはならない。」ですが、それを破った人々がペルガモ教会の中にいることを伝えた後に、悔改めが命ぜられているのです。そうしなければ、主ご自身が直接に厳しい戒めをされると言うのです。

②耳のある者は (17)「**耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。**」前の二つの教会に対しても言われたように、よく聞きなさい、そして御霊の促す御言葉としてこれを受け取っていきなさい。と勧められるのです。

③隠れたマナを (17)「**わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。**」「このパンを食べる者は永遠に生きています。」(ヨハネ 6:58) にありますが、ここにあるマナを食べる者には永遠の命が与えられるのです。また、与えられる白い石に記される新しい名とは、キリストという名が記されると考えて良いのです。その人がクリスチャンであることを証する文字がそこに刻まれるというのです。それを受ける者は、信仰告白を明確にして、主からの勝利を得る者なのです。

《結論》

エペソの教会とスミルナの教会に続いて、主から与えられた手紙はペルガモの教会でした。

それにしても、1章でもそのことが確認されたことですが、主イエスから直接の手紙をいただくとは、これらの七つの教会はなんと恵まれていることでしょうか。もちろん、使徒パウロ、使徒ペテロ、使徒ヨハ

ネなどを通して、与えられる手紙も聖霊によって導かれた書ですから、神の言葉であり、主イエスからの手紙ともいえるわけですが、この七つ

の教会の場合は直接の手紙だったのです。

ですから、直接にその信仰をほめられているということは、大いに励

まされることだったでしょう。それを糧にして、さらに信仰に進ませる

促しであったでしょう。でも、一方で直接に戒めを受けたならば、それ

は素直に受け取っていかなければならないでしょう。ここでペルガモの教会は、教会内にニコライ派の教えの影響を受けている人々がいることについて非難されています。それは、十戒に反し、キリストの福音

にも逆らっているのです。ここでは、その教えを奉ずる人々はもちろん、教会全体に対して、「悔い改めなさい」と命ぜられているのです。

地域の教会が、罪の問題を真正面から受け取っていくというのは、痛

みが伴うものです。しかし、癒されるために手が施されなければなりません。これを体の治療にたとえてみましょう。ある個所に病巣がある

ならば、適切な手術や投薬などによる治療がなされる必要がありますし

ょう。そうしなければ、その病気は悪化して、広がってしまうかもしれ

ません。でもそれが手術であれば、身体には負担もあるのです。しかし、

それは治るために必要な処置なのです。それと同じように、教会内の

霊

的な病巣に対しても、主に手を置いていただかなければならないのです。でも、よく考えると私達の生活や歩みなかにおいては、主の前にた

くさんの罪があります。ニコライ派の教えまでいかなくても、福音を

自
分勝手に、都合の良いように、変えてしまっているようなことがある
か
もしれません。また、主の喜ばれない行動や言動や思いも私達には多々
あるでしょう。
今、私達は皆がそろって主の前に出ていきたいと思うのです。そし
て、
教会として、主からの赦しをいただいきたいのです。そうするな
ら
ば、見えない白い石にキリストの文字が刻まれて、私達の教会も新た
に
証しする教会として、立たせていただくことができるでしょう。また、
一人一人のクリスチャンも、主によって聖められ、進むことを許され
て
いくことになるでしょう。2020年の1月19日、改めてともに聖なる
主の前に悔い改めをしていこうではありませんか。